

質疑応答書

科目名：北欧における公共図書館の意義と役割

講師名：吉田 右子

質問

図書館と音について、発達障害の方々等のことを考えると、部屋を仕切ること等の工夫もいるのではないか。

回答

音声についてのご質問ありがとうございます。

講義では時間の関係上ご説明できなかったのですが、部屋を仕切ることや階ごとに音声をコントロールすることはよく行われています。例えば以下のような例があります。

- ・静かに読書や勉強をしたい人のための「静寂ルーム」を館内に設ける。(館内の全体のスペースから見るとごく小さい部屋です。)
- ・きわめて集中的に作業をしたい人のために専門のキャビンを設ける。(大学図書館の個室学習スペースを公共図書館で設けるケースです。予約制を取るところが多いです。)
- ・階ごとに、おしゃべりをしてよい階と静かにする階を決める。(1階を賑やかなスペースに、階が上になるにしたがって静寂空間になっていくパターンを多く見かけました。)

以上はある程度規模が大きい図書館の例です。分館ではこうした工夫が予算的にも空間的にも困難ですが、例えば「雑誌・新聞コーナー」はおしゃべりができ、後のスペースは静寂な利用が自然に推奨されています。音声に関して、子どものコーナーは例外なくおしゃべりができます。北ヨーロッパの図書館は、子どものコーナーから図書館が賑やかになっていきました。また国ごとにややトーンが異なり、一番にぎやかなのはデンマーク、次にスウェーデンとフィンランド、ノルウェーやオランダは成人のコーナーでは割合静寂が保たれています。